

新社長

創業74年を迎えたゴム製品メーカーのかじ取りを4月から担っている。自社ブランドを含むシューズのほか、防水シートや床材といった化成品、自動車部品など製品は幅広い。「社員が伸び伸びと成長できる会社を目指す」と意気込む。

創業家出身で宮地治夫会長(82)の長男。高校卒業後にコンピュータの専門学校を経て、一度はIT企業で働いた。広島化成に入社後は化成品やシューズ事業のほか、前職の経験を生かして社内システムの構築などを担当してきた。

広島化成(福山市)

宮地 みやち
幹治氏 かんじ (42)



「100年続く会社にするため、しっかりと土壌をつくる」

〈略歴〉広島大経済学部卒。IT企業勤務を経て、05年入社。シューズ事業本部長補佐、取締役管理本部長などを経て、4月1日から現職。福山市出身。

《会社概要》本社は福山市松浜町。現在の早川ゴム(福山市)から分離して、1947年創立。販売や製造を担うグループ9社があり、2020年12月期の売上高は計122億円。グループの従業員数は2554人。

だ。国内の人口が減り、売り上げ規模が縮んだとしても利益を出せる仕組みが必要と考える。「短期、長期の視点での経営が欠かせない」と気を引き締める。

れ「価値観が変わった」。30代後半での初めての大学生活は新鮮だった。

その姿は周囲への刺激にもなった。ある社員は「忙しい中でも自分を磨いている。見習わなければと感じた」と話す。3月の卒業に合わせ、12年間務めた前社長の西浩一監査役(63)からバトンを受け継いだ。

100年企業へ土台づくり 30代後半 大学進学転機

けて売り込む新事業。「多大な損失」を出し、5年ほどで撤退した。「駄目そう

中でも子会社の設立は苦い経験となった。ビル内の避難誘導灯に企業広告を付

社長としての使命を「創業100年を盛大に祝うこと」と言い切る。見据えるのは四半世紀も先の未来

た。役員を務める傍ら週4日、広島市中区のキャンパスに通った。専門分野の経営学にとどまらず、心理学部の夜間コースに進学し

(村上和生)

まずは新型コロナウイルス禍からの反転に注力する。大型店での売れ行きが伸び悩むシューズは、ネット販売を増やす。自動車のドア周りの部品では、インドネシアやタイなど成長が見込める新興国の需要を取り込んでいく。

私生活では3月に第3子の長男が生まれた。「社業と学業。そしてパパ業でも転機が重なった」と表情を緩める。6歳と3歳の娘2人と図書館や動物園に出かけるのが休日の息抜きだ。